



No.1104
1月号

2016
January

丘の大地

JAびえい・広報誌

2016年

あけましておめでとう



小さな胸に大きな夢

— 朗根内へき地保育所のみなさん —





代表理事専務

浦島 規生



代表理事組合長

熊谷 留夫

年頭の
ごあいさつ

急変する農業・農協環境 今、協同の精神を軸に役割の発揮を

組合員の皆様方には、ご健勝にて2016年の輝かしい新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

さて、平成27年の営農は、平年よりも1週間ほど早い融雪となり、4月・5月の春耕・播種期は比較的好天に恵まれ、農作業は順調にスタート致しました。

6月・7月は、気温がやや低めに推移し、日照不足が心配されましたが、結果的には本町で最も多く作付面積を有する秋まき小麦の収穫にこれまでになく、好結果に結びつくものとなりました。

その後、8月から9月にかけての収穫期は比較的順調に推移したものの、収穫終盤の10月は極端な低温と長雨に苦勞し、水稲の刈取りが平年に比べて遅れ、晩生の馬鈴しょやてん菜も11月にずれ込むなどの影響を受け、ご苦勞された組合員も多かったのではないかと思います。

しかしながら、昨年はそうした苦勞が報われる結果と言えるほど、各作物とも品質・収穫量で平年並から

平年を上回る水準となりました。

昨年の特徴的な農業生産の結果ですが、水稲では豊凶の目安となる作況指数で、全国100、北海道104、上川104、美瑛町は101。低タンパク率は24.5%となりましたが、良食味米生産へのご努力を頂いたところであります。

小麦については、前述の通り、気象経過が登熟に良好に作用したことや、生産者各位が気象状況に応じた効率的な収穫作業を進められた結果、特に秋まき小麦が好成績を収め、製品ベース反収で10.8俵となり、小麦生産始まって以来の総出荷量2万トンに達しました。

てん菜については、基準糖度を上回る17.3%、10^{kg}当たりの収量についても6.9^{kg}という良好な内容でありました。

青果関係では、振興作物のトマトが14億円に達し、3月に完成致しました新しい選果施設が稼動したところであり、今後、さらなる増反振興に向けて取り組んで参ります。

また、昨年10月30日に貯蔵加工処

理施設が竣工となりました加工玉ねぎは、作柄も良好であったことから4.858^{kg}の生産量となり、今後とも新たな畑作振興の核として期待をしているところです。

畜産関係では、依然としてコスト上昇要因が続く中、比較的冷涼な気象推移と生産者努力により生乳生産量が増加、個体販売価格も比較的高めで推移したため総じて良好でありました。肉豚においてもPED被害を生産者努力で徐々に克服し、販売頭数の増加から良好な結果となりました。

このような経過の中で、昨年は「農協改革法案の成立」と「TTP交渉の大筋合意」というわが国の農業・JAにとって極めて大きな情勢変化があった1年でした。

農協改革については、その主要な目的である法改正と農業所得向上の関連性などについて、いまだに十分な理解が進まない中、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要事項が今後の検討課題となっており、あらためて地域農業の振興や協同組



謹んで新春の お喜びを申し上げます

- ◆代表理事組合長 熊谷 留夫
- ◆代表理事専務 浦島 規生
- ◆常務理事 北野 和男
(学識経験者)
- ◆理事 神成 博美
(総務委員長・農家経済対策特別委員)
- ◆理事 藤田 元弘
(業務委員長・農家経済対策特別委員)
- ◆理事 草野 恒之
(農家経済対策特別委員長・業務委員)
- ◆理事 真田 佳則
(総務副委員長・農家経済対策特別委員)
- ◆理事 村上 聡和
(業務副委員長・農家経済対策特別委員)
- ◆理事 江花 秀一
(農家経済対策特別副委員長・総務委員)
- ◆理事(総務委員) 山田 剛
- ◆理事(総務委員) 吉井 鉄也
- ◆理事(業務委員) 米田 浩幸
- ◆理事(業務委員) 櫻井 盛明
- ◆理事(学識経験者/信用担当) 加藤 護
- ◆代表監事 山本 英之
- ◆常勤監事(員外監事) 吉尾 豊
- ◆監事 柏倉 秀伸
- ◆監事 太田 満
- ◆監事 福田 弘行
- 外職員一同



合活動への影響がないよう、政策への働きかけが必要です。

一方、TPP交渉に関しては、国民的議論がなされないまま、昨年の10月5日大筋合意がなされるという、極めて残念な結果に至り、強い憤りを覚えるところです。

今後通常国会においてTPP交渉に係る国会審議がなされる予定ですが、改めて政府には説明責任を求めると同時に生産者の不安を払拭し、希望の持てる地域農業づくりに向け、万全な対応を強く求めて参ります。

言うまでもなく、農業は食料の安定供給という、極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫(ごう) 変わることはありません。

我々農業者・JAは、その責任感と自負のもと、あらためて協同の精神に立ち返った中で、さまざまな課題を克服するため、今こそ力の一つにする必要があります。

昨年の11月には、第28回JA北海道大会が開催され、「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」を決議事項として、向こう3カ年の新たな取組み方針を確認したところです。

これらの実現には、何といいたしても道内の各JAが、自らの地域で協同組合の役割やJA事業への理解に向けて、様々な活動を行うことが肝要と思います。

そのためには、地域住民の関わりについても、これまで以上に結びつ

きを深めることが重要であると考え、今後どのような地域貢献ができるのかを積極的に検討して参ります。

思いを同じくする身近な人たちが、まず連携を図って参りましょう。

今年の干支は申年(さるどし)です。一説には、申は、伸ばすという意味があり、「草木が十分に伸び、実が成熟していく時期」を表しているとのこと。

今年は、この申年にあやかり、天候に恵まれた実り多い充実した一年となりますよう、併せて、組合員の皆さんのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

トピックス JAこの1年

平成27年度の区域内農業生産は147億円(交付金等含) 余で過去に類例を見ない生産額となりました。

気象の経過では3月の爆弾低気圧による風雪突風被害に見舞れたものの、総じて順調な気象推移となり、水稻の作況指数では、全国100、北海道・上川で104、

美瑛町は

101で契約比出荷

率は98%、小麦においては総出荷量で20,097ト(321千俵)、秋小麦の反収ベースでは前年を2.6俵上回る10.8俵で全量1等Aランクで調製されたことは施設の高度利用が功奏したもので生産者ともども慶ぶところです。

困難をバネに再出発

生産者所得に直結する各種施設の充実ですが、国や行政の支援を前提に、トマト選果施設、精米施設、加工玉ねぎ貯蔵加工処理施設などを取得したところですが付加価値アップにより所得の向上に専念をすることがあります。

27年度は農協改革法案の成立やTPP交渉の大筋合意など農業、農協に係る極めて重要な変化の年となりJA改革などでは整理すべき課題が残されています。TPPでは情報の開示が不十分な中、大筋合意に至りました。JAグループとしても地域社会への支障が無いよう働きかけを強化することがあります。



1/21 不動の産地づくりめざし、トマト生産部会で定期総会

1/6 H27年の仕事初めに新年交礼会

1/15 フレッシュミセス会で感動のスタンドグラスを



1/29 快挙!大雪さんろくクラブの2氏が道青年農業者会議発表で最優秀に



2015年の動き

「事業を振り返って」

1月

- 仕事始め
- 農機安全祈願祭 新年交礼会
- 上川地区農協連連絡協議会交礼会
- 中央要請行動
- 出初式
- 美瑛町はたちの集い
- 青年部富良野沿線冬期研修会
- とまと生産部会定期総会
- 豆作生産部会冬期研修会
- 業務委員会
- 総務委員会
- 企画会議/朝会
- 第34回理事会

2月

- 決算棚卸
- JAびえいゲートボール大会
- 第一回役員選任推せん会議
- 中央要請行動
- JA青年部定期総会
- JA女性部定期総会
- 稲作生産部会定期総会
- 麦作生産部会定期総会
- フレッシュミセス定期総会
- アスパラ生産部会定期総会
- 種子馬鈴しょ生産部会定期総会
- 馬鈴しょ生産部会評議員会
- 豆作生産部会定期総会
- 早坂・齊藤・遠藤顕彰管理委員会
- 第35回理事会
- 実践農業講座・報徳社総会
- 大根生産部会定期総会
- 第60回地区こん談会
- 第2回役員選任推せん会議
- 長ねき生産部会定期総会

3月

25
27 26 26 24 23 19 19 19 18 16 13 13 12 10 9 6 4 3 2 1
日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日



2/6 JA 青年部で定期
総会・新部長に大
西智貴さん



2/21 白銀の大地に地上絵



2/23 美瑛牛乳を使用
したオリジナルパン
をローソンで販売



2/25 多彩な意見をJA
事業に、第60回地区
懇談会



2/3 フレッシュミセス会で定期総会、新
会長に栢木絵里さん



2/9 女性部定期総会で料理
研究家の横山アディナさん
による研修も



3/10 台風並みの低気圧・美瑛
町を襲う。ハウス納屋に被害



3/3 第54回全国青年農業者会議のプロジェ
クト発表で只野達郎さんが全国最優秀



2/28 「食農学校・あした
天気にな〜れ！」でピ
ザづくりなど楽しむ

■美しい村連合世界大会ウエルカムパーティー 26日 ■JA各連合会総会 24日 ■トマト生産部会消流こん談会 24日 ■馬鈴しょ生産者フィールドデイ 24日 ■固定資産現地確認 22日 ■加工玉ねぎ貯蔵加工処理施設安全祈願祭 22日 ■企画会議／第3回理事会 19日 ■上川地区組合長会総会 19日 ■上川地区米麦改良協会総会 14日 ■ヘルシーマラソン開会式 12日 ■美瑛アグリサポート（株）設立 11日 ■獣魂祭 9日 ■上川地区監事協議会総会 4日 ■町農業所得税対策協議会総会 2日 ■企画会議／第2回理事会 2日 ■トマト選果施設竣工式 29日 ■共済総決起大会 25日 ■自治監査 16日 ■新農業者人激励の集い 10日 ■日本農業新聞全国大会 10日 ■PPP北海道緊急集会・デモ行進 30日 ■上川中央農業共済組合通常総代会 28日 ■美瑛選果取締役会・株主総会 24日 ■廃プラ適正処理対策連絡協議会総会 24日 ■エソ鹿被害防止対策連絡協議会総会 24日 ■高齢者事業団定期総会 22日 ■日本で最も美しい村づくり総会 15日 ■農業再生協議総会 10日 ■人事異動辞令交付 8日 ■年金友の会総会 8日 ■農業技術実証展示園運営協議会総会 8日 ■JA役員新旧交代式 8日 ■4月 ■第36回理事会 17日 ■企画会議 17日 ■丘のまちグルメ協議会 12日 ■とまと選果施設引越し 10日 ■ゆり根生産部会定期総会 5日	
---	--

3月 美瑛トマトの付加
価値づくりに選果ラ
インを新設



3/22 TPP国会決議を反
故にしない。札幌で緊急
集会

3/19 多発する特殊詐欺被
害の未然防止に旭川東警
察署長から感謝状



5/21 新農業人 16
名に激励の集い



5/23 農業を身近に。町内児童と田植
え教室

4/6 J A の方向を決める
総代会で新理事・新監
事が承認されました。



7/8 今年も無事に穀類乾燥調製
貯蔵施設でおごそかに安全祈
願祭



6/14 丘のまчиびえいヘルシーマラソ
ンに5千7百人余がエントリー。J
A若手職員も参加



6/2 トマト選果施設竣工に。
全道屈指の産地をめざして



10月			9月			8月			7月		
人事異動発令	1	日	農業委員会総会	1	日	上半期決算棚卸立会	1	日	美瑛消防訓練大会	1	日
			米政策に係る意見交流会	7	日	美瑛町活性化交流施設オープニングセレモニー	1	日	J A 女性部町外研修	2	日
			酪農家族こん談会	11	日	全上川農連中央ブロック会議夏期研修会	1	日	穀類乾燥調製貯蔵施設設運営協議会及		
			美瑛町開拓記念式典	15	日	自治監査	20	日	同施設安全操業祈願祭	8	日
			平成27年産米所前初検査	19	日	どかんと農業まつり	23	日	業務委員会	8	日
			びえいセンチュリーライド開会式	19	日	企画会議／第5回理事会	24	日	上川地区酪畜・畑青対委員会	8	日
			北海道米販売拡大委員会／ふれあい田んぼ教室	26	日				フレッシュユミセス夏期研修会	8	日
			農協の改革に係る北海道ブロック会議	29	日				組織活動交流会	8	日
			企画会議／第6回理事会	30	日				ライスセンター受入式	9	日
									インターンシップ開校式	13	日
									J A 道大会組織討議資料説明会	16	日
									企画会議	17	日
									加工玉ねぎ施設施行委員会	22	日
									第4回理事会	23	日
									美瑛神社祭典御神式	25	日
									TPPに関する中央要請	26	日
									新規採用者（大卒）面接試験	28	日
									人事異動発令	31	日

7/2 女性部町外研修で 「キャッツ」を観劇



7/16 美瑛農業をしっかり学んでください。広島県の高校生がインターンシップ



7/9 笑いを誘う組織活動交流会でのアトラクション

8/22 丘のまちのどかんと農 業まつりに約3万人



6/25 J Aも全面協力。美しい村連合世界大会

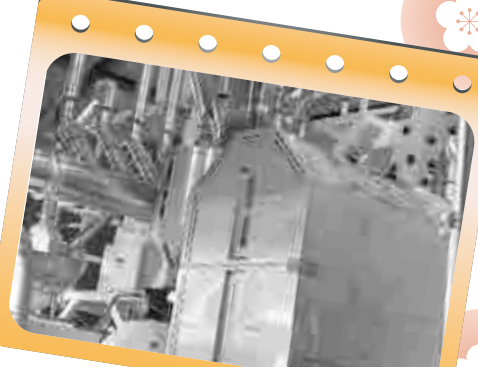


7/8 フレッシュミセス会で夏期研修。オリジナルのジャムに舌つづみ

11/19 農協法公布を記念し て一日一斉皆訪問（福富 瑛進地区にて）



11/5 戦略品目“加工玉ねぎ処理加工施設”稼働に



9月 美瑛米の付加価値づくりさらに。精米設備を増設

■新採用試験（高卒） ■農業委員会総会 ■秋の収穫感謝祭 ■JA全国大会 ■甜菜原料対策研修会 ■農業労務対策修了式 ■避難訓練（本所） ■企画会議 ■第7回理事会／加工玉ねぎ修祓式 ■T P Pに関する中央要請 ■加工玉ねぎ処理加工施設稼働 ■美瑛カレーどんぶり誕生10周年記念フォーラムパーティー ■年金友の会道外研修（北陸） ■JA北海道大会 ■加工玉ねぎ貯蔵加工処理施設完成施設見学会 ■テーブルマナー講習会 ■東京びえい会総会 ■自治監査 ■学校給食米・パン贈呈式 ■森林組合木材加工流通施設竣工式 ■自治監査 ■農協法公布記念事業 ■二股地区100周年記念式典 ■企画会議／第8回理事会 ■コンプライアンス委員会 ■一日ホクレン	12月 ■農業委員会総会 ■集落代表者研修会 ■オーストラリア領事来町 ■JAびえい同志会 ■麦作生産部会合同会議 ■とまと育苗施設引越し ■馬鈴薯生産部会評議員研修会 ■業務委員会 ■総務委員会 ■甜菜受入報告会 ■美瑛町へ鏡もち謹呈式 ■企画会議／第9回理事会	11月 ■新採用試験（高卒） ■農業委員会総会 ■秋の収穫感謝祭 ■JA全国大会 ■甜菜原料対策研修会 ■農業労務対策修了式 ■避難訓練（本所） ■企画会議 ■第7回理事会／加工玉ねぎ修祓式 ■T P Pに関する中央要請 ■加工玉ねぎ処理加工施設稼働 ■美瑛カレーどんぶり誕生10周年記念フォーラムパーティー ■年金友の会道外研修（北陸） ■JA北海道大会 ■加工玉ねぎ貯蔵加工処理施設完成施設見学会 ■テーブルマナー講習会 ■東京びえい会総会 ■自治監査 ■学校給食米・パン贈呈式 ■森林組合木材加工流通施設竣工式 ■自治監査 ■農協法公布記念事業 ■二股地区100周年記念式典 ■企画会議／第8回理事会 ■コンプライアンス委員会 ■一日ホクレン	28日 24日 23日 18日 15日 15日 14日 8日 3日 1日 1日	30日 30日 30日 28日 19日 17日 16日 16日 16日 14日 13日 12日 11日 10日 7日 5日 4日	30日 29日 28日 23日 16日 15日 9日 1日 1日
--	---	---	--	---	---

年頭の
ごあいさつ

今年も頑張りました



ないことを知る良い機会でした。

青年部としては、美瑛小5年生との食育事業、春期と冬期の研修会、視察研修運動会(ミニバレー大会)、収穫祭といった既存の事業にプラスして、フレッシュミセス会と農協職員青婦部と合同で組織未加入者との交流を狙いとして「ふれあい交流会」を開催しました。農家子息の方はもとより、町外からの新規就農者の方にも青年部に参加してもらうことで、情報や技術の共有、美瑛に溶け込んでもらうところや仲間づくりでもメリットがあると考えています。

最後ではありますが、今後とも、青年部らしい組織活動の実践と地域貢献を実践していこうと考えております。皆様には変わらぬご支援をお願い申し上げます、また、新年のご多幸を祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



青年部長
大西 智貴

情報・技術の交流で
仲間づくりの輪を

新年あけましておめでとうございます。日頃より青年部活動にご理解とご協力を頂いておりますことに、心より感謝申し上げます。

2015年を振り返ると、「TPP大筋合意」「農協改革」と農業にとって一つの大きな変化がありました。青年部長として、反TPPの集会や、改革プランについての協議会の場に参加する機会も多くありました。接点の無かった人の話を聞く良い機会を持つことができ、私個人にとって多くの「気づきの場」に恵まれた一年だったといえます。

昨春、青年部長になってすぐに反TPP



女性部長
大滝 律子

活動体験は
貴重な経験に

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、順調な融雪と好天により、近年では稀にみる爽やかな春を迎えることができました。その後も大きな天候の崩れもなく、作業面でもスムーズに進めたのではないのでしょうか。毎年の猛暑もなく、作物にあった天候で小麦、豆類などたくさん収穫できたように思います。秋の終わり頃は少し長雨と雪に悩まされましたが、無事収穫できたことに喜びを感じております。

私は昨年の女性部活動を通じて、様々

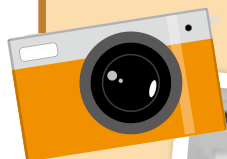
な体験をさせていただきました。7月の町外研修では、劇団四季札幌公演ミュージカル観劇を前年に引き続き実践して、たくさんの方の部員の皆様に参加していただきました。私も今回初めて参加して、おどろきと、劇団の皆様のしなやかな踊り、歌声に圧倒され、感激して幸せな時間をすごさせていただきました。

10月末に東神楽で開催された上川管内女性部ブロック研修では、神楽寺の住職、加藤昭治様の『今、いかに生きるか』と題したとてもためになるお話を聞けました。午後からはブリザーブドフラワー作成と、他JA女性部との交流もあ

り、楽しいひと時を過ごして参りました。11月のJA北海道女性大会・家の光大会でも様々なお話を伺ってきました。家の光記事活用体験の発表では、酪農の大変さの中でも家の光を活用しているという発表を聞きました。また、講演会は「JA女性組織に期待するもの」「みんなを支える在宅介護」という内容で、これから介護を迎えるであろう自分にとっての勉強になる2日間でありました。

また、JA北海道大会にも出席して、恵まれた北海道の農業を守って、若い担い手に託していきたいと思いましたが、小

組織活動の この一年



女性部パン作り



フレッシュミセス会
ステンドグラス作り



青年部食育事業



青年部・フレッシュミセス会
合同ミニバレー大会



青年部・フレッシュミセス会
ふれあい交流会

活動で創る 新しい風



フレッシュミセス会会長
栢木 絵理

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと推察し、年頭のごあいさつを申し上げます。

また、日頃よりご支援、ご協力をいただいております、役員、部員、事務局の方々に心から感謝申し上げます。

私は一昨年フレッシュミセス会に入会したばかりの新米で、昨年会長という大役を受けたものはじめは右も左もわからず、大変戸惑いがありました。農業の経験も浅く、無知な私が、会員の方々の役に立つのだろうか、迷惑ではないだろうかと考えたこともありました。しかし、さまざまな研修や活動に参加させていた

だきながら、人とのつながりを通し、大変成長できた一年だったと思います。

特に食育事業では、町内の小学生と一緒にたくさん経験をさせて頂きました。顔や服を泥だらけにしながらいれた稲がお米として食べられるようになるまで勉強ができる事は、とても素晴らしい取り組みで、自分たちで作ったお米で調理した「おにぎらず」そして美瑛産の食材で作った「豚汁」を「おいしい」と言いながら、お腹いっぱい食べている子どもたちを見て、改めて食の大切さを感じることができました。

年々、会員の数が減りつつあるフレッ

さな手に包丁を持って具材を切ってくれて、出来上がった豚汁・おにぎらずを満面の笑みを浮かべておいしそうに食べていました。

残りわずかな任期で、あと少しとなった女性部の活動を無事終えたいと思っております。役員一同、一生懸命勤めて参りますので、皆様、どうぞよろしくお願

いたします。青年部さん、フレッシュミセスさんにもお世話になりました。最後になりましたが、皆様のご健康と今年も豊穡の秋を迎えられますようこと

をご祈念申し上げます。



シュミセス会ですが、地域の人達とのつながりを大切に、自分たちで新しい風を起こすことで、さらなる町の活性化に繋がればと思っておりますので、各会員の皆さま、ご家族の皆さまのご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

この一年、役員会、行事などで家を空ける機会が増えましたが、快く送り出してくれた家族に心から感謝致します。

最後になりましたが、残された任期を役員一同、皆様のお力をお借りしつつ務めさせて頂きたいと考えております。

本年が皆さまにとって輝かしい年でありますよう心からご祈念申し上げます。

明日を担う

美瑛町新星第5

おおなみ たろう
大波 太郎 さん



私は新星地区で後継者になり8年目になりました。現在の経営規模は32haで畑作。春小麦、秋小麦、ビート、とうもろこし、豆、アスパラを栽培しています。アスパラ以外は機械による作業を主とし、日々のメンテナンス、技術、知識への探求心、そして観察の重要性を感じています。戦後、この地区に入植した祖父の

代から水田と畑作、羊を数頭飼い5〜10haの耕作で農業の取組みが始まったそうです。その後昭和40年ごろ国の政策で水田に転換するも、傾斜地での水田耕作は苦勞が多かったようで作柄は良くなり、減反のあり方もあり、再び畑作に変わったと聞きました。ただ、その時に造られた用水路が新星中に張り巡らされてお

異国の経験 多彩な人生観に

り、各畑のすぐ近くで水の調達が出るほか、暑い夏は流れる水の音で癒されることもあります。昭和47年に近隣の農家同士で新星第5機械利用組合を設立し、5年後に独立。以前は南瓜やニンジン、カブ、大根とみつ葉の種なども栽培していたようですが、現在は畑作経営になっています。

私は高校を卒業後、縁あって米国で農業を学ぶプログラムを紹介して頂き2年間現地で研修をしてきました。広大な大地と大型の機

械、夏に一切雨の降らない砂漠地帯

での農業は日本との違いを大いに感じました。中でも文化、習慣、そして言葉の通じない環境にストレスを感じることが多く、辛い日々が大半でした。その時に助けてくれた研修仲間、気にかけてくれたボスやメキシカン、そして両親の支えは忘れられません。親切にしてくれたことや、

異国での様々な経験はその後自分の人生観に大きな影響を与え、帰国後の物の見方や考え方、人生観が多種になりました。偏った見方で結論づけるのを辞め、「何事もまずは受け入れることから始めよう。」そう心掛けるようになりました。

そして、年々人との繋がりの大事さを感じています。帰国直後は生意気になんでも出来ると思いこみ、「青年部なんて、地域なんて」とないがしろに考えていました。しかし、色んな機会や場を通して

地域の交流を大切にして

多くの方に出会って影響を受けました。地域に助けられ、仲間に支えられていることに気づき、幸せなんだとわかってきました。日々の努力も必要ですが、独りよがりにならず助け合い、多くの人の意見や考えを聞き、いかに取り入れるか、繋がりで得た情報交換の場や交流は大切にしていきたいです。

大きく広がれ 組織の輪 ～ふれあい交流会～

JA青年部・フレッシュミセス会では組織の輪を広げる「ふれあい交流会」を12月19日、JA大ホールで行いました。

この取り組みは、部会員のふれあいを深め、地域の交流を広げようと今年初めて企画したものです。

この日は、JA職員や組織未加入者を含む88名のほか、たくさんの子どもたちも集まり楽しい会となりました。

交流会では町内外のおいしい料理やデザートなどが準備され、余興ではマシュマロとパスタで作った高さを競うゲームや抽選会が行われ、大きな盛り上がりを見せました。

大西青年部長は「このような活動を通し組織活動参加のきっかけになつてくれれば・・・」と話していました。



景品抽選会



豪華な料理とデザートたち



マシュマロパスタゲーム



子ども抽選会

私は冬の間、近くのペンションでアルバイトをしていて町内を写真ツアーで回っています。外国人観光客を相手にすることが年々増え、対応の仕方に四苦八苦しています。感じるのは英語、又は中国語、あるいはベトナム語など第二の言語を話せる、話さなくてはならない重要性です。ツアー中、私が農家だと伝えると多くの人が農業に興味を持ちたくさん質問をしてきてくれます。この土地の事や作物、気候などを尋ねられますが、日本語のゴリ押しでは伝えたいことも伝えきれません。辞書な

どを駆使してなんとか伝え、理解してもらえた時は嬉しいですし、同時に美瑛を知ろうとしている心も嬉しく感じます。畑に入つてはいけなさと伝えたり、入った人を注意したり、そしてどうして駄目なのかを伝えるためにもこの先外国語はどんどん必要になつてくると思います。加えて、進入禁止の理解をより多くの人に伝えていくことも私の課題です。

TPP大筋合意に至り、私たちの生活そのものが不利益を被ることは大いにあると思います。国内がこれからどう変わるか国会の議論を注視

しなくてはなりませんし、もしかしてプラスの面もあるかもしれない、やり易い共通ルールで海外と繋がれるかもしれない、どう取り入れ活かせられるか、その方法を探らなければいけない気がします。

案内した外国人に感謝の言葉とともに「夏にはあなたの農場に行きたい」と言われるとすごく嬉しく、不思議と彼らの国に興味が沸き、いつか行つてみたいと思うようになります。TPPで関税が撤廃されて、安い外国産農畜産物が入ってくる前に、大事なのは先ず日本以外の国（TP

P参加11カ国）をもっと知ることです。理由は「本場の料理を食べてみたい、好きなスポーツを観戦に行きたい、爽やかな空気に癒されたい」など、きっかけがなんであれ外国を考える良い機会になるのではないでしょう。私はお世話になった研修先、思い出のある人々や国にいずれの負の感情なんて持ちたくありません。アジアの人たちは元気があります。交流を持ち繋がればもっと美瑛を知ってもらえ、何かチャンスが生まれるかもしれない。そしてそこから良い循環が起これば最高で楽しいと思います。

平成27年の 営農を ふりかえって

作業期は大雪地区、生育期節は大雪地区作況ほ成苗なつぼし

融雪は順調でしたが、6月、7月、及び8月中盤以降の低温日照不足により、気象に翻弄された一年となりました。

不稔や青米の混入が心配されましたが、全ては「出穂開花期」の天候に救われました。

収量は、千粒重低下（7月の低温の影響と考えられる）と茎数不足などで26年並とはなりません。歩留まりは高くおおむね平年並は確保できたと思われます。一年を振り返ってみたいと思います。

1 育苗・移植

融雪期は平年より12日早い3月30日となりました。5月10日まで雨が少

なく乾土効果の発揮された年となりました。

耕起盛期は、平年より5日早い4月29日となりました。

出芽迄日数は、7日と平年並、催芽状態も良かったため出芽揃は、並〜良い傾向でした。

4月5半旬〜5月1半旬の高温多照により5月15日現在では平年より3日早くなりました。草丈は長く、葉数は進みましたが、その後5月22日まで低日照で経過したことから葉数は進み過ぎることなく移植時葉数はほぼ適正でした。

移植始は平年より3日早い5月16日、移植期は3日早い5月20日、移植終は1日早い5月26日となりました。

2 本田初期の生育

移植後の高温多照（特に5月23日〜6月1日）により活着は並〜良好で、活着期は3日早い5月25日、分げつ始は4日早い6月1日となりました。

1〜3半旬は気温日照共に低下し、生育は遅れ、6月15日現在では遅速は平年並となり、初期生育にも影響を及ぼしました。

作況ほについては苗代分げつが有効で茎数は平年対比109%となりました。

3 幼穂形成期以降の生育

6月5〜6半旬も気温日照共に低く、幼穂形成期は1日遅い6月26日となりました。

低温の影響で町内的には幼穂形成期は6月25日〜7月10日までばらつく傾向となりました。

前歴期間の6月6半旬〜7月2半旬は気温日照共に低く（平均気温15.3℃）不稔の多発が懸念されました。しかし以降で述べる開花期の天候に恵まれ影響は回避できました。

冷害危険期の2半旬は日照は十分で最高気温は高いが最低気温は低く（最低気温8.3℃）生育の早いほ場の親穂の「先端」では不稔が発生しました（親穂のみで不稔率30%程度。ただし、株全体では10%以下）。

この間日照はあるので、「20cmの深水」ができれば水で保温され不稔は回避されたと考えられます。

4 出穂から成熟期の生育

出穂期は4日遅い7月28日となりました。

出穂開花期の7月6半旬〜8月2半旬は、日照はやや不足するものの気温は平年を大きく上回りまし（最高気温28.3℃、最低気温18.3℃）。

これにより前歴期間の低温の影響

は回避され、稔実歩合は平年並となりました。開花も一斉に揃いました。

一転して登熟中盤の4〜6半旬は気温日照共に平年を下回り、登熟後半の9月1〜3半旬も気温は低めに推移しました。成熟期は平年の7日遅れとなりました。

収穫始は平年より5日遅い9月17日、収穫期は9月19日（平年7日遅）、収穫終は10月11日（平年13日遅）となりました。降雨の影響で収穫作業は遅れる傾向でした。

5 作況ほの概要（表1参照）

表1 大雪地区作況ほ収量構成要素及び決定要素

成苗なつぼし	平成27年	平年	対比（%）
m ² 当穂数（本）	667	600	111
一穂粒数（粒）	53.5	54.9	97
m ² 当総粒数（粒）	35,685	32,960	108
稔実歩合（%）	97.4	94.2	103
m ² 当稔実粒数（粒）	34,757	31,047	112
千粒量（g）	22.3	23.2	96
精玄米重（kg/10a） （篩目1.9mm）	692	647	107

6 品質

8月4半旬以降、気温は平年を下回り26年と似た気象経過をたどりました。しかし、開花が揃ったことで、

昨年のような青米の混入は回避されました。ただし、出穂が遅れたほ場では遅れ穂での青米の混入もみられました。

低タンパク米の出荷比率は、「ななつぼし」26%、「ゆめびりか」は28%（7.4%以下を含めると97%）とやや低くなりました。

27年は全道的にタンパクが高い傾向ですが後半に窒素が効いた可能性が高いです。すなわち、6月1半旬～7月2半旬までの低温日照不足と7月5半旬～8月3半旬における気温上昇が影響したと考えられます。

7 病害虫・生理障害の発生状況

(1) いもち病

8月上旬、穂いもち病の初発が町内の複数箇所を確認されました。

8月4半旬以降が低温で経過し広がることはありませんでした。

27年は6月中旬より7月末までいもち病の発生しやすい気象条件となりました。

感染好適日は6月22日。この1週間後に初発が確認されと言われるが、近隣の東川町では6月29日に初発が確認されました。

幸い美瑛町においては、常発ほ場は育苗箱施用剤（ルーチン剤）や水面施用剤（オリゼメート等）が使用され発生を遅らせることができました。

た。しかし、下葉からの感染であるため薬剤の残効が切れる7月末には初発していたと考えられます。

その後、2回目の本田防除が終了した8月上旬、穂いもち病に移行したと考えられます。

ルーチンやオリゼメートなどの予防剤を使用しても、7月末頃にはいもち病の発生がないか確認しましょう（特に低温年）。

基幹防除前（出穂期前）まで発生を防げれば、その後の発生はほぼありません。

(2) イネドロオイムシ

高温の影響で、成虫の初発は5月末と早く盛んに飛び込みがみられました。

イネドロオイムシは低温年に被害が大きくなると言われます。

融雪が早いため成虫の発生が早く多い傾向に加え、6月～7月が低温で経過したことから発生がだらつき無防除ほ場においては6月3半旬頃から、アドマイヤー等の育苗箱施用剤を使用しているほ場においては、7月1半旬から被害が目立ち、追加防除が実施されるなど、一部地区では被害の多い年となりました。

すでにアドマイヤーの効果が低下している地区では、系統の異なる薬剤として、「バス顆粒水和剤（新剤）」

が有効です。ただし、ウンカ類に効果がないため、縞葉枯病の発生が懸念される場合は、アドマイヤー顆粒水和剤の混用を検討します。

防除薬剤の育苗箱施用は登録量を下回る薬量を施用すると、当年の効果不足につながり、薬剤感受性の低下を招きます。規定の薬量施用を遵守してください。

(3) アカヒゲホソミドリカスミカメ

カメムシによる斑点米被害の多少は、イネの割刈率、カメムシの発生量、防除の時期で決まります。

7月が低温で経過したために、割刈率は高い傾向でしたが、カメムシの発生量は8月3半旬までの巡回調査においても、田及び畦畔ともすくい取り頭数は少ない状況でした。適期に防除され、被害はみられませんでした。

8 稲作経営の基盤強化に向けて

(1) 個人でできること

- ・排水対策と土作りはどの作物においても営農の基盤となります。溝切りや心土破碎を実施しましょう。
- ・排水対策は暗渠の負荷を軽減し長寿命化につながります。
- ・融雪材（ケイ酸資材等）を散布し乾田化に努めましょう。
- ・低米価にあってもケイ酸散布は必ず

散布しましょう。

- ・施肥は、土壌診断等を活用し、低コストな銘柄を選択しましょう。

- ・冷害危険期に深水管理を行えるように、畦畔の補修をおこないましょう。
- ・価格の高い「ゆめびりか」は安定的につくりこなしましょう。

- ・作業機はメンテナンスを十分行い耐用年数を延ばすよう工夫しましょう。

(2) 地域全体で考えること

- ・米の消費減（国内では年間8万トン減）が進むなか、これ以上の米価上昇は望めません。

- ・各府県で新品種開発が進むなか、平成30年の生産調整廃止後は国内における産地間競争も激化すると考えられます。

- ・TTP対策では、輸入米と同量の米を備蓄米として市場から隔離するとはいえ、その後の影響は誰にも予測できません。

- ・一方、一戸あたりの水稲面積が小さい美瑛町では、施設や機械は過剰投資になりがちです（一戸あたり適正規模は10～15ha。これ以上は再投資が必要となるといわれます）
- ・今後は高齢化や後継者不足によって規模拡大が予想されますが、施設・機械においては再投資が必要となる規模まで活用し、コストを下げ

ることが必要です。

・コンバイン等機械の更新では、積極的に共同利用等を検討しましょう。
標高差のある美瑛町では、作業機の地区間調整が可能です。

・美瑛町は全国的にも地名度の高い町です。水稻面積が小さいからこそ丁寧な米作りが可能です。今後もブランド力を活かすとともに、付加価値を付けた米作り（農薬節減など）を検討しましょう。

・生産者自らが美瑛農業の魅力を再確認するとともに、都市部との交流を深めさらなる美瑛米のファンを増やしていきましょう。

美瑛町は、水稻のみの経営、水稻とトマト、水稻と畑作など地区によって経営タイプや面積は異なりその抱える課題は様々です。

それぞれが「個人」でできること、「地域全体」で取り組めることを検討していきましょう。

TPP発効と生産調整廃止まであと2年。

美瑛米の方向性を見定め強みを活かすと共に、稲作経営の基盤強化に努めましょう。



畑 作

本年は、融雪期が3月30日と平年の4月11日より12日早まり、春作業は比較的順調に経過しました。は種や植付作業も昨年同様、ほ場の碎土性が良好な条件で行うことが出来た。しかし、6月の低温・曇天傾向は、生育のばらつきや作物全体に遅れの拡大が見られました。低温多湿によるばれいしよの一部品種に疫病が散見されましたが、相対的には病害の発生が少ない年次で、秋まき小麦は過去最高となるなど平年作以上の収量を確保しました。1年を振り返り次年度に向けた取組を冬期間中に検討をお願いします。

1 秋まき小麦（きたほなみ）

(1) 越冬前の生育

「ゆめちから」のは種期は9月16日と平年より3日早くなりましたが、「きたほなみ」は9月24日と3日遅くなりました。出芽後、気温が低く経過したため、生育は停滞し、越冬前の草丈、葉数、茎数は平年を下回りました。

(2) 越冬後の生育

融雪期が早まったため、起生期も早まり4月12日と9日早まりました。4月下旬から5月上旬にかけて、高温で経過しましたが、雨の少ない乾燥条件となったため、幼穂形成期は5月5日と生育はやや停滞しました。5月下旬から6月上旬にかけて高温に推移し、出穂期は6月4日と6日早まっています。6月下旬から7月上旬に冷涼な気候で推移したため、生育は大幅に遅れ、成熟期は平年より2日遅い7月22日となりました。

本年は、赤さび病、赤かび病の発

生は少なく、う
どんこ病は平年
より多くなりま
したが、収量に
大きな影響は与
えませんでした。

(3) 作柄に影響を及ぼした要因

追肥効果が発揮され穂数の増加が見られたこと、登熟期間が48日間と平年よりも8日長くなり、乳熟期から成熟期の気温の日較差（最高気温－最低気温）が大きくなったため千粒重が重くなったことで、平年を大きく上回る収量となりました。しかし、7月に入り、降雨毎に倒伏が増加し、歩留まり低下を招いたほ場も散見されました。

表2 秋まき小麦の収量構成要素

項目	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)
27	666	32	798	42.3
平年	591	30	656	38.6
平年比(%)	113	108	22	110

※ 1穂粒数・千粒重は2.3mm篩い以上

表1 秋まき小麦の農作業期と生育期節

項目	農作業期		生育調節				登熟期間
	は種期	収穫期	起生期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	
本年	9月24日	7月28日	4月12日	5月5日	6月4日	7月22日	48
平年	9月21日	7月26日	4月21日	5月12日	6月10日	7月20日	40
遅速	遅3日	遅2日	早9日	早7日	早6日	遅2日	+8日間

収穫時期は高温

にも経過したため、穂発芽による品質低下はありませんでしたが、27年度は紙一重の状況と考えます。「倒伏させない麦づくり」には、適期適量は種量と春以降の適正な窒素量で計画的に行うことが重要となります。

2 春まき小麦（春よ恋）

27年は融雪が早まったため、は種期は4月14日と平年より8日早まりました。は種後、高温・少雨に経過しましたが、出芽期は順調でした。6月上旬がやや低温となつたため、生育は緩慢となり

出穂期は6月18日と早4日となりました。生育が早まったため、出穂期までは、平年を上回る草丈、稈長になりました（最終的には平年並の稈長）。茎数・穂数は、分げつが順調に進み、平年よ

表3 春まき小麦の生育期節・作業期節

項目	農作業期		生育調節				登熟期間
	は種期	収穫期	起生期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	
本年	4月14日	8月8日	4月28日	6月9日	6月18日	8月5日	48
平年	4月22日	8月7日	5月5日	6月13日	6月22日	8月3日	42
遅速	早8日	遅1日	早7日	早4日	早4日	遅2日	+6日間

りも多くなり
ました。収穫
は40mmを超え
る突発的な雨
がありました
が、雨間をぬつ
て作業は進め
られました。が、
収穫は8月
15日と平年よ
り3日遅くな
りました。
本年は、
うどんこ病
の発生が平
年より多く
なりました
が、防除の
実施により
収量に影響
を及ぼす発
生にはなり
ませんでした
。

(1) 作柄に影
響を及ぼし
た要因
本年は、
は種期から
成熟期まで
の生育日

表5 春まき小麦の生育日数と積算気温

項目	生育日数				積算気温（最高気温～最低気温）			
	出芽期 ～ 止葉期	止葉期 ～ 出穂期	出穂期 ～ 乳熟期	乳熟期 ～ 成熟期	出芽期 ～ 止葉期	止葉期 ～ 出穂期	出穂期 ～ 乳熟期	乳熟期 ～ 成熟期
	止葉期	出穂期	乳熟期	成熟期	止葉期	出穂期	乳熟期	成熟期
27年	42	9	25	23	610	113	309	220
平年	39	9	21	21	519	124	260	239
平年比(%)	108	100	119	110	118	91	119	92

表4 春まき小麦の収量構成要素

項目	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)
27年	666	23.9	673	42.3
平年	562	21.7	501	39.9
平年比(%)	119	110	134	106

※ 1 穂粒数・千粒重は2.3mm篩い以上

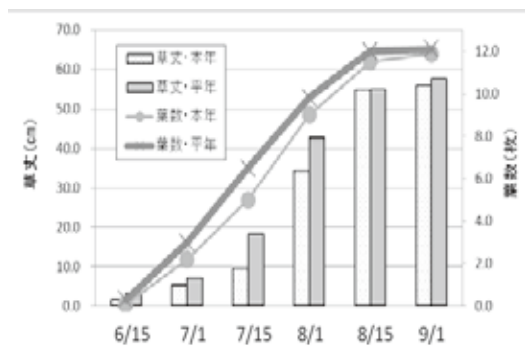


図1 小麦の草丈・葉数の推移

数が長く、積算気温も高かったこと
から、穂数は多くなりました。また、
27年は出穂期から成熟期までの積算
気温が、平年より高くなったことか
ら、千粒重も重くなりました。穂数、
1穂粒数、千粒重ともに平年を上回
り、収量は平年を上回る結果となり
ました。過去7年間で、27年の収量は、
高収量年に区分されます。雨による
倒伏が少なければ、千粒重のさらなる
増加が見込まれたことから、27年
の減収要因は、雨による「倒伏」と
考えられます。

3 小豆（きたのおとめ）
5月中旬の降雨により、小豆のは
種作業は遅れ、は種期は平年より2
日遅い5月26日となりました。は種
後の気温が上がらず、雨も続いたこ

とから、出芽
期は平年より
3日遅い、6
月10日となり
ました。6月
下旬から7月
中旬にかけて、
低温になった
ため遅れが拡大し、開花期
は7月30日と
7日遅れました。
登熟期間
の8月下旬か
ら9月上旬に
かけても低温で推
移したため、成熟
期は9月16日と平
年より9日遅れと
なりました。生育
前半は、草丈、葉
数ともに平年を下
回っていましたが、
7月下旬から8月
中旬の高温により、
節間が伸び、その
後、多くのほ場で
倒伏が見られました。

(1) 作柄に影響を及ぼした要因
27年は、開花後の稔実莢数が決ま
る期間の積算気温が平年より低く、

表7 小豆の収量構成要素

	㎡当莢数	一莢内粒数	百粒重(g)	子実重
本年	387	7.2	11.5	310
平年	440	6.0	12.2	278
平年比(%)	88	120	94	112

表6 小豆のは種期と生育期節

項目	は種期	生育調節			収穫期
		出穂期	開花期	成熟期	
本年	5月26日	6月10日	7月30日	9月16日	10月7日
平年	5月24日	6月7日	7月23日	9月7日	10月2日
遅速	遅2日	遅3日	遅7日	遅9日	遅5日

英数は平年より少なくなりました。
しかし、着花時の天候が良好であつ
たことから、一莢粒数は、平年より
多くなりました。開花から成熟にか
けての登熟期間の積算気温は、平年
を下回る積算となったことから、百
粒重は小さくなりました。莢数、百
粒重は平年をやや下回りましたが、
一莢粒数が平年を上回ったため、収
量は平年より多くなりました。

4 ばれいしょ（男爵）
4月下旬から5月上旬にかけて、
気温の高い日
が続く、植付
期は平年より
8日早い、5
月4日となり
ました。萌芽
期は、植付期
が早かったた
め、平年より
5日早い、5
月27日とな
りました。6月
下旬から7月
中旬にかけて
低温となり、
開花期・莖葉
黄変期は概ね
平年並となり
ました。27年

表8 ばれいしょの作業と生育期節

項目	農作業期	生育調節					収穫期
	植付期	萌芽期	着蕾期	開花期	終花期	莖葉黄変期	
本年	5月4日	5月27日	6月12日	6月27日	7月10日	8月7日	9月12日
平年	5月12日	6月1日	6月15日	6月28日	7月13日	8月7日	9月18日
遅速	早8日	早5日	早3日	早1日	早3日	±0	早6日

は生育が早まっていたこともあり、茎長が平年より長く、茎数も早めに確保されました。

6月下旬以降の低温・日照不足もあり、男爵で7月中旬に疫病の初発が見られ、茎葉で

の発病が少なかつたほ場でも、塊茎腐敗が例年より多く発生しました。

8月以降、降水量が多く、収穫に苦勞した年次となりました。

(1) 作柄に影響を及ぼした要因

27年は塊茎形成期（着蕾～開花）の6月下旬に降雨があり、いも数が多くなりました。1個重は若干小さくなりましたが、いも数が多かったため収量は高めとなりました。しかし、7月下旬以降、少雨の時期もありましたが、収穫前から土壌水分が多い状況が続く、塊茎腐敗を増加させ、収量の低下を招くほ場もありました。

28年産については、気象の経過に注意し、疫病予測システム等を活用した初期防除の徹底を図る必要があります。

表9 ばれいしょのいも数と1個重

	株当りいも数	いも1個重
27年	10.8	92
平年	9.2	96
平年比(%)	117	96

5 てんさい

は種作業・出芽とも順調で平年並となりました。融雪期が早く、ほ場条件が良好な中で移植作業が進められ、移植期は平年より6日早く、5月1日となりました。強風と少雨の影響で、やや活着は遅れ気味でありましたが、6月中旬までは適度な降雨もあり、初期生育は平年より早い生育となりました。6月下旬から7月上旬が低温となりましたが生育は概ね

表10 てんさいの生産実績

項目	根重(kg/10a)	根中糖分(%)	糖量(kg/10a)
27年	6,935	17.3	1,203
平年	6,103	16.4	1,002
平年比(%)	114	106	120

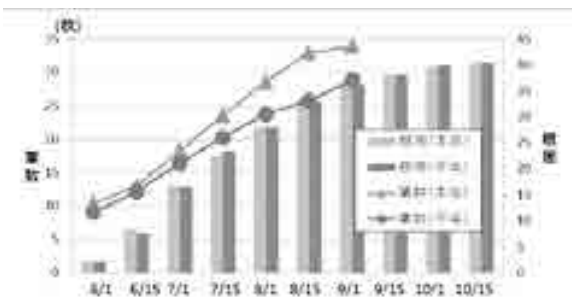


図2 てんさいの葉数と根周の推移

平年並に経過しました。褐斑病の発生は少なく、収量に影響を与える病害虫の発生はありませんでした。

(1) 作柄に影響を及ぼした要因

27年は、根部肥大に影響する6月上旬までの気温は冷涼に推移しましたが、移植期が大幅に、早まったことから、根部肥大は順調に進み、根重は平年より114%多くなりました。また、秋季の気温も低くなったことから、根中糖分は平年より106%も高く、糖量は120%と平年を上回る結果となりました。2力年とも根重・糖量とも高くなりました。次年度も高収量高糖分に向けて、春先のほ場の乾燥化を進めるため融雪促進を図り、ほ場条件の良好な状態で移植作業ができるように準備を進めましょう。

野菜

果菜類

平成27年は、融雪は早まりましたが、5月末までは比較的気温が高く、6、7月上旬までは低温と日照不足、7月中旬以降は、高温傾向もありましたが秋の多湿条件が続くなど、農作物の管理に苦勞した一年となりました。

1 トマト

① 促成・半促成作型

促成・半促成作型では、4月下旬から5月上旬までの好天により着果・肥大は順調で共選は例年より10日早い受入となりました。しかし、気温が高く、果実の肥大が急速に進み、土壌水分の不足もあり尻腐れ果が低段位に見られました。

② 抑制作型

5月21日以降の定植となる抑制作型は、土壌水分が少ない状況での定植となりました。促成・半促成作型同様に5月下旬の高温により肥大が進み、低段位で尻腐れ果が多くなりました。

③ 病害虫

病害は、6月上旬からの曇天と降雨が多くなった7月下旬以降、ハウス内の多湿条件により灰色かび病の発生が多くなりました。害虫は、アザミウマの発生が6月中旬にピークを迎え、7月上旬から下旬にかけて、2番目のピークがありました。

2 スイートコーン（生食用）

他の作物のは種・移植作業が順調であったこともあり、スイートコーンのは種作業は例年よりも早く（5月中旬）行われました。出芽は順調でしたが6月の低温と曇天により、生育の遅れが拡大しました。7月中旬から気温が高く推移しましたが収穫は平年よりやや遅れて8月中旬よ

り収穫が始まりました。

細身でボリュームがやや劣った感がありますが、相対的には先端不稔が少なく雌穂の充実は良かったものと思われます。

3 さやいんげん

他作物の作業が順調に進んでいたこともあり、は種時期は前年並の5月20日頃から始まりました。

出芽は、ばらつきはあまり見られませんでした。6月の低温、曇天により、生育の遅れが拡大したほ場もありました。以降の天候回復により、収穫時期は前年並の7月20日頃から始まりました。

病害虫の発生は少ない傾向でしたが、莢数が少なめで前年よりもやや低収となりました。

■ 茎葉菜類 ■

1 ゆりね

4月下旬からの好天により生育は順調に経過しました。6月の天候不順があったものの、相対的に前年より玉肥大は順調に経過しました。

目立った病害虫の発生はありませんでしたが、少雨による葉先枯れが一部で見られました。また、鱗茎さび症、あんこ症は少ない状況でした。

2 たまねぎ

融雪が早かったこともあり、直播は早いほ場で4月上旬には種が始まります。移植は5月上旬からほ場条件が良好な中で作業が進められました。直播は比較的順調に出芽期を迎えました。生育は低温の影響を受け、生育は遅れたものの球肥大は良好でした。倒伏期は移植で8月上旬、直播で8月下旬となりました。

収穫は、移植で9月上旬、天候不順の影響もあり、直播は10月上旬頃からの作業となりました。

病害虫は、軟腐病の発生が目立ちました。



■ 洋菜類 ■

1 グリーンアスパラガス

融雪後、4～5月の好天により収穫は前年並からやや早い5月上旬から始まりました。5月中旬の低温によるアントシアン（紫色化）や強風の影響による曲がりも多くなりました。しかし、収穫期間は6月下旬までと長くなり、前年より収穫量が多くなりました。

病害虫は、収穫期間中、ジウシホシクビナガハムシの食害が散見されました。斑点病は前年並の発生となりました。

2 ブロッコリー

融雪が早かったこともあり、定植時期は例年より早く進みました。5月中旬に低温を受けたほ場では生育の遅れや品質に影響が見られました。7月下旬から8月上旬に収穫を迎えた作型では長雨による湿害の影響と花蕾腐敗病が多く見られました。しかし、9月収穫の作型は、やや温度が低く玉肥大が緩慢な状況もありましたが、歩留まりも良く品質も良かったです。

害虫は前年からの多発傾向にあったヨトウムシ・アオムシの発生量は少ない傾向となりました。



本年もよろしく お願い致します

支所長

佐藤 千代志

地域第一係長

外山 直樹

地域第二係長

伊與田 まや

指導主任

田中 米子

専門普及指導員

吉田 純子

専門普及指導員

岡元 克憲

専門普及指導員

新井 菊江

専門普及指導員

工藤 淑郎

調査員

遠藤 成典

普及職員

中野 寛之

年頭のごあいさつ



攻めと守りの調和を

上川農業改良普及センター 大雪支所
さとう ちよし
支所長 佐藤 千代志

輝かしい新年をお迎えのこととお喜び
申し上げます。

昨年は融雪が早く、その後も好天が続
き春作業は順調に進められましたが、収
穫作業は不順な天候により思ったように
作業が進められず大変苦労しました。

しかし収量、品質は畑作物全般に高く、
特に秋まき小麦は記録的な多収となりま
した。

水稻は出穂直前まで低温で経過し冷害
が心配されましたが、出穂期以降の好天
により脱したもの8月中旬から再び低
温で経過し、良質米生産に課題を残す結
果となりました。

園芸部門及び畜産部門は生産額が前年
を上回り、総じて生産者の努力が報われ
た一年であったと感じております。

さて昨年10月のT P P大筋合意を受け
て12月にT P P関連政策大綱が示されま
した。

牛・豚肉生産者が採算割れしないよう
にするなど、農業保護を掲げております
が、農業に関係する人々の不安と政府に
対する不信は募るばかりです。

そうした中にあり、美瑛町では6月に

トマト選果場の稼働に加え美瑛アグリサ
ポート株式会社が設立されました。

さらに11月に加工たまねぎ貯蔵加工施
設を稼働させるなど、美瑛町農業の新た
な展開が加速した一年でした。

これは、北海道を代表する産地に成長
した「トマト」を更に発展させるととも
に、国と道が推し進める「六次産業化」
を加工たまねぎに狙いを定めた攻める姿
勢の現れと感じます。

その一方で、守るべき物は守るという
姿勢も重要です。具体的には「消費者に
安心して食べてもらえる美味しい農畜産
物生産」であり、丘のまち美瑛を消費者
にイメージしてもらえる商品づくりです。

輸入される農畜産物との差別化にはこ
れまで以上に実需者と消費者に商品の優
位点をP Rしていくことが重要です。

こうした攻めと守りに連動しながら皆
さんの身近な普及センターを心がけ、職
員一丸となって活動して参ります。

本年が皆さんにとって良き一年となり
ますことを祈念申し上げ、年頭のごあい
さつと致します。



焦点 FOCUS

平成 28 年も新しい 協同の種をまこう

T P P の大筋合意による美瑛農業の行方や農業所得のアップを前提とする理解し難い「農協改革や農業委員会の制度改革」は日本国民の主食を確保し、安全で安心な食料の生産に励む農業者にとって、衝撃的な1年でした。新春早々、参院選挙をにらんだ政局の動きや大筋合意に係る国会承認への議論などひとときも目を離すことはできない。

あわただしい中で通り過ぎた出来事で、特筆すべきことがある。美瑛町の区域内農業総生産が147億7千7百万円（直接交付金等含む）を挙げたことで、本町の類歴の農業総生産では初めてで、大げさにはないが「金字塔」でまさに本町の快挙でもある。27年度の水稲作況指数は全国100、北海道104、上川104で美瑛町は101の平年作。畑作では土地利用型の作目のエースとしての小麦作付は3.239㍏で26年比149㍏の増となったものの総出荷量では過去最高の2万97㍏となった。60㍏俵数換算では32万表を超え、製品ベースの反収（種子込み）では前年比を2.6俵/60㍏越えの10.8俵/60㍏となった。小麦生産においては数量的な高生産に加え、品質評価では全量1等麦のAランクで、行政の支援を受けながら、受入施設や乾燥・調整設備を年次的に整備してきたことの結果で、施設を高度利用しながら生産者の所得確保に結びつけることで、初期の目的を達成することが出来た裏返しであるともいえる。続くてん菜では作付面積1062㍏で前年比▲11㍏となったものの計画比4.7俵増の8億2千2百万円を確保した。反当収量は6.8㍏、糖分は17.5俵を確保、総生産の底上げに貢献する品目のひとつとなった。当JA農業振興計画での面積誘導品目のトマトは作付面積41.5㍏。生産量では4千4百トン余りをキープ。作付面積では市町村別で全道2位となり、良質トマトの生産地としてその地位は盤石なものとなりつつある。T P P大筋合意による国会承認はされていないが、国際化や産地間競争は必至だ。組合員の皆さんとともに、協同の下、農業で生き抜く“新しい種”を播きたい。

人気のカレーを美瑛産で



町内全校に食材を提供

町内小中学校児童・生徒の皆さん美瑛産の食材で作った給食カレーです。たくさん食べてください。

食育事業と併せ、美瑛産農畜産物を「食べ物」を通して理解を深めてもらう取り組みが12月8日・9日の両日に行われました。

「学校給食カレーの日」と称し、当JAが提案。体験型教育を取り入れている教育現場と意思も一致し初めての開催となりました。提供した食材は米と豚肉、ニンジン、バレイショ、タマネギで約900食分が同町給食従事員の手によって調理され提供されました。

当JAの熊谷組合長と浦島専務や浜田美瑛町長らが美瑛小学校を訪れ、児童と一緒に会話をしながら「カレーの日」を楽しんでいました。

節目を祝う



郷土の歴史を積み100周年

郷土の歴史を積み重ね100年。町内二股地区の開基100年を祝う記念式典と祝賀会が11月28日、二股総合会館で行われました。この記念事業に向けて組織された記念式典協議会の大谷誠一会長は、あいさつで「この地域は秋田県人などの入植に始まり、昭和26年頃には住民戸数も120戸と最盛を迎えた。その後、中学校や小学校の統廃合で2008年には17戸まで減少した。歴史の経過はあるものの、このように地域の皆さんと記念の節目を迎え、絆をさらに深めるいい機会となった。」と述べ、続いて地域の発展に貢献された方々に感謝状が贈呈されました。この日は熊谷組合長や浜田町長も出席。それぞれの立場で地域愛の高い皆さんに労いの言葉を寄せていました。

TPPに 負けない！

ーシリーズ2ー



深刻な打撃の畜産 財源確保も課題

私は、最も深刻な打撃を受けるのは畜産だと思っています。牛肉関税は現行38.5%から15年で段階的に9%、1/4までに引下がります。セーフガード（緊急輸入制限措置）は、全参加国からの輸入量が増えたと発動し、関税を引上げる仕組みとなっておりますが、発動の基準輸入量はほとんど発動される見込みがない様な大きな数量です。

しかも、4年間発動がなければ廃止されてしまいます。つまり実質的には9%で無制限に輸入されることになりそうです。今回の合意内定は極めて深刻なものとならざるを得ません。

和牛肉はある程度の価格差があるので影響を受けないのではなく、価

格差は残るものの、価格水準は低下するものと思います。肉牛経営には現在も四半期ごとに生産コストと市場価格の差に生じた8割を、補てんする制度があり、国が3/4を生産者が1/4を補填しています。実質的には6割補てんにしかなっておりませんので早急な法制化を念頭にTPP対応として制度の安定的な約束を求めるべきだと考えています。

ただ2割程度の価格低下による補てん単価の増加の一方で補てんの財源としていた牛肉の関税収入は、一千億円近く消失してしまいます。関税が9%になれば補てん財源がでるのかが大きな問題になってきます。

豚肉についてですが、米国のみならずTPP加盟国に価格の安い部位の関税、高価格部位の関税とも10年かけてゼロになります。実質的に

差額関税制度はなくなるに等しく豚肉のセーフガードも12年後には廃止される事になります。

現状の養豚の経営安定対策は、牛肉と同様赤字の8割を補てんする仕組みですが、生産者負担は1/2と大きく実質は4割程度の補てんにしかなくなっていないと思っています。肉用牛並になったとしても、赤字の8割補てんで生産者は1/4負担をしている訳ですから、実質は6割補てんにしかならないのです。

このような内容での法制化は不十分ですので、最大限の努力でも越えられない海外との生産性の格差を埋める「固定支払い」と「収入変動緩和支払」の2本立ての検討が必要になると思われます。ただ、ここでも財源の確保が問題になるのは牛肉と同じです。

歯止めのかからない生乳生産 最低限の所得補償を

乳製品については、現在バターや脱脂粉乳などの乳製品を生乳換算で13万7千トンを低関税で輸入する枠を設定し、それを超えると200%、300%の枠外関税を課している仕組みです。

TPPでは枠外関税は維持するものの、全体で生乳生産換算で7万ト程度のTPP参加国（米国、ニュージーランド、オーストラリア、カナダなど）への低関税の輸入枠を追加的に設定する提案でした。しかし、ハワイ会合でニュージーランドの要求を満たすことが出来なかった経過にありました。

関税の削減で競争するより、枠を確保して、オーストラリア、ニュージーランドから米国に増える分を、



～鈴木宣弘氏～

東京大学大学院農学国際専攻教授。
1958年三重県生まれ。東京大学農学部
卒。農林水産省職員、九州大学農学部助
教授、教授を経て2006年9月から現在職。

食料貿易に関しては、一部の輸出産業
の短期的利益や安い食料で消費者が得る
利益だけで判断するのではなく、極端な
食料自給率の低下による国家安全保障の
問題。地域社会の崩壊、窒素過剰による
国土環境や人々の健康への影響等、長期
的に失うものの大きさを総合的に勘案し、
国民的な議論を尽くすべきと主張されて
いる。

日本とカナダにより大きな輸入枠を
設定させて帳尻を合わせようとしたの
ですが、ニュージーランドの要求が
予想以上に大きく、加えてカナダか
らの枠の提示が以外にも想定以下
だったため、まともになかったのが
7月末だったんですね。

しかし、結局アトランタ会合では
7万トで折り合ってしまったのです
が、ニュージーランドが折れたのか
と言いますと実は、そうではなく日
本が食用脂（バターとマーガリンを
混ぜたもの）とチーズの関税撤廃・
削減で大幅譲歩した事によるもので
ニュージーランドが納得したという
ことは、それだけ日本の損失が大き
い事の裏返しとも言えます。

近年のバター在庫とバター価格の
関係を分析するとバター在庫が1%
増加するとバター価格は0・26%下

落する傾向があります。

つまり、7万トのバターを輸
入するのなら、現在のバター在庫
1万7千8百トンから、31・9%の
増加になりますのでバター価格へは
8・3%程度の引下げ圧力になること
が予想されます。

酪農での深刻な問題は、他の畜種
に比べても生産コストでの経営間の
バラツキが非常に大きいため、平均
生産費で見て、ある程度所得が得ら
れているので問題ないという議論が
出来ないことにあります。問題はな
いと言いつつながら現に生産量の減少が
続いているのですから、生産量の減
少に歯止めをかけ、増産に転じられ
る様にするためには、確保されるべ
き最低限の所得水準を見極める必要
があると思います。

輸入小麦のマークアップ削減 で財源不足になることも

小麦製品の関税撤廃に対応するた
め、現在の小麦輸入のマークアップ
により実効17円／kgが45%削減さ
れる事になってしまいますので輸入
小麦の国内流通価格が下がり、国内
の小麦価格に、下落してしまうこと
となりこのことにより約400億も
の財源収入が減ってしまうことにな
り、価格の下落に伴う国内小麦の
固定払い（ゲタ対策）などは拡充す
べきところなんです。むしろ財源
が減少することになり対策に困難が
生じることになってしまいます。財
源の不足が放置された場合、小麦生
産者の手取り価格は、34・4%ほど
低下してしまう可能性があります。

以上の様に「国内対策も含め重要
品目の再生産は可能」と言い張るこ
とには決して出来ない状況です。

さらに、すでにわずかしが残って
いない林産分野においても輸入の伸
びている合板や製材を16年間で関
税撤廃するという凄まじい内容に
なっていることも認識して頂きたい
と思っています。

被害は3千億円程度？

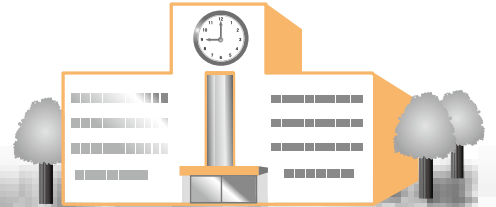
T P P 合意内容がそのまま実施さ

れたら政府試算では3兆円だったの
ですが、現在準備されている国内対
策で当初見込みの被害額を1／10の
1に圧縮し3千億円程度に留まると
しています。これはここまで縮小し
たのだから、よく踏んばって交渉し
た、評価して欲しいと言わんばかり
ですが、この被害額は過少と言わざ
るを得ない。一部の品目について業
界や我々の試算額だけでも1兆円は
軽く超えています。

（つづく）



地域の 学校紹介



美瑛町立美馬牛小学校

校長 倉重 昭夫

美馬牛地区は、美瑛町市街地より南に約10キロメートルのところにある、南は上富良野町と境界を接し、背後には北海道の屋根・大雪山連峰の十勝岳の秀麗なる峰を仰ぎ見ることが出来る丘陵地帯です。四季を通じて変化に富んだ美しい風景は、写真撮影の絶好の被写体となっており、観光客が絶えることがありません。その中でも本校の校舎は『丘の上の塔のある学校』として知られ、写真家前田真三氏によって全国に紹介されています。

本校は、地域の学校として明治43年にはじまり、現在は近隣の4つの小学校が統合する形で美馬牛小学校となっています。子どもたちの数は、現在7学級（特学3）で39名です。「求めて わかつて 行動する子に育てる」という教育目標のもと、児童のよさや持ち味を生かしながら創意ある教育活動を推進しています。教科での学習では、子どもたちに今後つけていきたい力として、「言語活動」を重視し、「的確な表現方法」で「自分の考え」を伝えることができるこ

とを目指して、「話すこと」「書くこと」に力を入れています。特にノートづくりや話し方・書き方については全学年で、重点的に指導をしています。

また、「総合的な学習の時間」では、本校の特徴である自然豊かで広大な校地の中にある学校園・ビニールハウスを活用した栽培活動を実施しています。子どもたちが進んで作物の世話をする事で、自主性や責任感が育つています。収穫した作物は、自分たちで調理し、おいしくいただいており、楽しい食育の学習の場にもなっています。

家庭との連携も盛んです。毎年、運動会前・グラウンド納め前には、保護者のほとんどと地域の方の協力を得て、環境整備が行われ、校地内をリフレッシュします。夏休み前には、PTA主催で「野外活動」という名のキャンプが行われ、1年生から6年生までが、一晩学校にお泊まりをし、付き添いの保護者も共同作業をすることで親交を深めています。

校外の多くの学校と同様に、本校も児童生徒の減少が大きな課題となっていますが、これからも学校・家庭・地域が連携し、それぞれのよさを発揮して、さらに充実した教育を目指したいと思っています。

みんなの作品



1年 大西結愛



1年 小西侑里



1年 小西朱琳



1年 寺島光輝



1年 桑原桃瑚



1年 佐藤快斗



2年 高橋隼弥



2年 尾川 恵



2年 川村有梨紗



2年 小木田晴哉



3年 白田紗那



3年 横山高大



3年 豊瀬大樹



3年 寺島大翔



3年 佐藤琉輝



3年 川村玲衣奈



3年 村上由季



4年 白田紗近



4年 三浦さくら



4年 大場裕翔



4年 柏倉心愛



4年 佐藤陸斗



4年 沢江夏希



4年 延 舞子



5年 熊谷悠花

桑原 涉

桑原 悠

佐藤潤奈

高橋伊織

二ノ倉康太郎

三浦あかり

横山史透

6年 江花詞温

尾川 愛

小石川新

小西詩織

佐藤文香

佐藤瑞希

豊瀬さや

FARM LAND からのお知らせ

大ヒット商品！ リピーボード！！



ハウス・倉庫・
家の前のぬかるみに
これからの時期には
必需品

サイズ 1230X2560X13
重量 40Kg

30,000円（税別）



12月に配布させていただ
きましたファームランド
今年は昨年よりページ数も
増えて商品も充実
コンテナや工具セット・
移動式軽油タンクなど役に立
つ商品目白押し！！

新商品からヒット商品がいろいろ掲載されています
今年の営農に役立ててください
期間は3月31日までです

ファームランド
FARMLAND JAびえい店

窓口

☎ 92-3455 FAX92-3488

各種検診受診料の 助成について

JAびえいでは、正組合員を対象に助成措置を実施しております。

- 各種検診
～ 検診料の50% 但し **6,480**円上限
- 脳ドック
～ 検診料の20% 但し **4,320**円上限
- 肺ドック
～ 検診料の20% 但し **2,160**円上限

※領収書をご持参のうえ、共済窓口までお越し下さい。
※上記記載助成措置は、正組合員とその家族限定です。

窓口

貯金共済課共済店舗 ☎ 68-7017

JA Biei Information



農業者の皆さまへ 農業者年金のご案内

老後生活の備えは十分ですか?? 農業者年金は、
国民年金の第1号被保険者（保険料納付免税者を除
く）で、年間60日以上農業に従事する60歳未満
の方であれば、どなたでも加入できます。

※加入される方は、国民年金の付加年金（付加保険料月額
400円）への加入も必要となります。

農業者年金のメリット

少子高齢化時代に強い積立方式の年金

公的年金ならではの税制上の優遇措置

終身年金で80歳までの保証付き

農業の担い手には手厚い政策支援

詳しくは窓口までお問い合わせください。

窓口

営農部 ☎ 68-7014

年始のJA業務時間のご案内

		1月1日(金) ～3日(日)	4日(月)	5日(火)	6日(水)	7日(木)
金融店舗窓口		休 業	9：00～16：00			
A T M	ホクレンショップ玄関	休 業	9：30～18：00			
	金融店舗	休 業	8：45～17：00			
給 油 所	北町SS	休 業	8：00～17：00			8：30～19:00
	大町セルフ	24時間営業				
上記以外の部門		休 業			仕事始め 8：30～16:00	8：30～17:00

年始休業中の緊急対応

JA業務につきまして、緊急な業務対応は次の通り実施いたしますのでお知らせします。

窓口 総務部 ☎ 92-2111

項目	連絡先
JA共済事故受付センター	0120-258-931
灯油・プロパンは	92-2157

1月のパソコン講習会について

◆日程◆

種類	月日	時間	内容	講師	場所
ソリマチ簿記 (パソコン)	1月15日(金) 21日(木) 22日(金) 26日(火) 28日(木) 29日(金)	① 9:00～11:00 ② 13:00～15:00	・ソリマチ簿記の使い方や勘定科目の設定など ・次年度更新の行い方 ・クミカンデータの転送仕方 ・酪農講習会(29日のみ)	青申会	JA2階 PC研修室

◆持参するもの◆

自分のパソコンで講習を受けたい方

本体を持参してください

ソリマチ簿記を受講希望の方

伝票入力の練習も行いたい場合は、今年のクミカン報告書と減価償却資産台帳を持参して下さい。

窓口 営農部 ☎ 68-7014

営農研修会は 1月28日(木)

今年度の営農研修会は、水稻・畑作生産者の方を対象に1月28日(木)に開催します。詳細は後日、FAXおよび農協無線でご案内致します。多数のご出席をお願い致します。

◆開催日 平成28年1月28日(木)

◆場所 JAびえい3階大ホール

窓口

営農部 ☎ 68-7014

**車の購入を検討されている方へ！
素敵なキャンペーンのご案内★**

その1. 新車購入でもれなく豪華景品プレゼント！

TOYOTA SUZUKI SUBARU MITSUBISHI MOTORS

JAの春の新車フェア 2016年1月1日(金)～3月31日(木)に契約分まで

4メーカー全車種対象 特別企画

新車ご購入で、**もれなくプレゼント**

豪華景品は、ご来店でご覧いただけます！

① コファロン
② ナノケア ナノケア
③ ナノケア ナノケア
④ ナノケア ナノケア
⑤ ナノケア ナノケア
⑥ ナノケア ナノケア
⑦ ナノケア ナノケア
⑧ ナノケア ナノケア
⑨ ナノケア ナノケア
⑩ ナノケア ナノケア

その2. 上川管内農協限定キャンペーン
<H28.1.1>3.20迄>平成27年度 新卒者の皆様へ!!

**期間中、新車・中古車をご成約頂きますと、
もれなく素敵なプレゼントを差し上げます!!**

※メーカー・車種問いません！ 窓口 研修センター TEL 92-0588

平成 28 年度 免税軽油・農業労災保険の 受付をします

農業機械課では、平成 28 年度免税軽油申請と、農業労災加入手続きを行いますので、お早めの手続きをお願い致します。

■申請手続き

免軽必要事項

平成 28 年度の営農計画書に基づく作物別作付面積書

労災必要事項

平成 27 年度分使用労働者数及び支払賃金、
平成 28 年度支払予定賃金

持参するもの

印鑑、標識交付証明書（トラクター等入替増車の方）

受付期間

1 月 14 日（木）～ 1 月 22 日（金）

受付時間

午前 9 時から午後 4 時まで

受付場所

研修センター会議室

※近年、免税軽油の不正利用防止の為、使用者への調査が強化されております。

免税軽油使用者証に未記載の機械への使用等、不正使用が発覚した場合は、罰則（免税証の不交付や過去三年に遡り返納等）が生じますのでご注意ください。

※毎年、多くの農作業事故が発生しております。未加入の方はこの機会にぜひ農業労災に加入しましょう。



JA びえい研修センター

窓口

☎ 92-0588



**ご協力
ありがとうございます
ございます**

**新年特集号
表紙の写真**

2016 年本紙の表紙を飾って頂いたのは「朗根内へき地保育所」の元気な 5 人の園児の皆さんです。二人の保育士さんの指導のもと、音楽やお絵かき、運動と元気いっぱい。新春にふさわしい元気をお届けさせていただきます。今年は「申年」でこの日のために手づくりの「おさる」さんを準備しての表紙演出となりました。

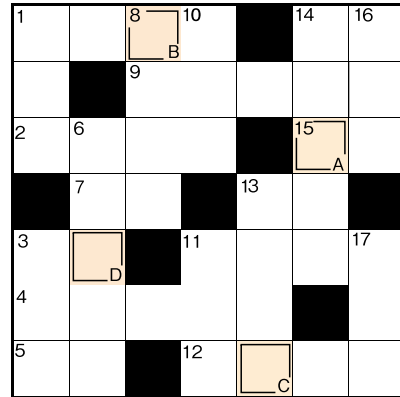
主役の 5 名は

左から、ふくだるきくん（左下） さとうしおんくん（上段左）
おぐちひなちゃん（中央） かまだりおちゃん（中央右）
ふくだりきくん（右）

頭の体操

クロスワードパズル

二重マスの文字をA↓Dの順に並べてできる言葉は何でしょうか？



ヨコのカギ

- 1月は睦月、2月は――
- 結婚して――を持ちました
- 酒を温めること
- 疲れたので――しよう
- 電子メールを数えるときにも使う言葉
- ハイの反対語
- 日本初の国産磁器 積み出し港だった佐賀県の地名を冠しています
- 風呂を上るときに浴びます
- 自動車の燃料の一つ
- バレンタインデーに伝える人もいます
- 古い杉の木などではとても太くなりやす
- 節分にまく物

タテのカギ

- 1 物事が起こる気配 春の――
- 絵や文字を修正したり書き足したりすること
- 鹿児島県の南端にある島
- たばこと一緒に持ち歩くことの多い道具
- 配偶者の妹、あるいは弟の妻
- 東大寺や――大社がある奈良公園
- 一般的には白みそより辛め
- 生まれて一月の赤ちゃんを連れて、神社へ――に行きました
- 薬の――がすぐに表れた
- チョコレートを溶かすには、じか火ではなく――することが多い

正解者の中から抽選で5名の方に農協全国商品券1,000円分（全農）をプレゼントします。たくさんのご応募をお待ちしております!!

【応募方法】

● ハガキ

うら

- ① クイズの答え
- ② 今月号の良かった内容
- ③ 取り上げて欲しい内容
- ④ その他ご意見・感想など
- ⑤ 住所氏名・年齢・電話番号

おもと

〒071-0298
美瑛町
中町2丁目6-32
J A びえい「丘の大地」
クイズ係

● F A X 0166-92-2977

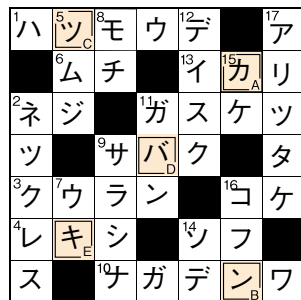
● Eメール kouhoushi@biei.ja-hokkaido.gr.jp

【締め切り・発表】

毎月20日(当日消印有効)、当選者は次号でお知らせします。

こたえ・当選者

☆先月号のこたえは『カンツバキ』でした



☆当選者は

山田 斗さん
高橋 和さん
只野 信さん
佐藤 淳さん
村田 順子さん

以上5名です。
おめでとーございます。

※応募の際にご記入いただいた個人情報、賞品の抽選・発送に利用させていただきます。また、ご意見・感想については、本誌編集の参考にさせていただきます。

1月のあなたの運勢

監修/モナ・カサンドラ

おひつじ座 (3/21~4/19)

【全体運】プレッシャーに弱く、ストレスを感じやすいかも。できる人と比較せず、自分は自分と開き直って。神社参拝吉
【健康運】冷えは万病のもと。万全対策を忘れずに
【幸運を呼ぶ食べ物】甘エビ

おうし座 (4/20~5/20)

【全体運】柔軟性が高まり、みんなと上手に付き合える時期。周囲のサポートも期待できそう。海外に関する事柄に福あり
【健康運】気付かず、疲労をためがち。休息も大事
【幸運を呼ぶ食べ物】キャベツ

ふたご座 (5/21~6/21)

【全体運】ネガティブな発想をしやすい月。失敗にクヨクヨせず、意識してプラス思考を。自然の中で過ごすとうれしに
【健康運】胃腸系をいたわることで体調に好影響大
【幸運を呼ぶ食べ物】セロリ

かに座 (6/22~7/22)

【全体運】あれこれ不安が生じやすい傾向。迷ったときは一人で悩まず、信頼できる人に相談を。開運にはイメチェンが◎
【健康運】適度に体を動かせば調子が上向くはず
【幸運を呼ぶ食べ物】小松菜

しし座 (7/23~8/22)

【全体運】物事を深刻に受け止めやすくなる気配。持ち前の明るさを発揮して。ユーモアたっぷりの映画を見て気分転換を
【健康運】ちょっとしたけがに注意。行動は慎重に
【幸運を呼ぶ食べ物】ミカン

おとめ座 (8/23~9/22)

【全体運】ウキウキとした楽しい気持ちになれる期間です。新年会などを主催して、大いに楽しむとグッド。旅行も大賛成
【健康運】話題の健康法に挑戦するとうれしい変化が
【幸運を呼ぶ食べ物】小豆

てんびん座 (9/23~10/23)

【全体運】ささいなことでカリカリしがち。いつも笑顔を心掛け、ソフトなイメージづくりを。玄関掃除も運氣回復に効果的
【健康運】食することでストレス解消は×。運動を
【幸運を呼ぶ食べ物】コハダ

さそり座 (10/24~11/22)

【全体運】コミュニケーション運が良好。苦手意識を感じていた相手と簡単に分かり合えそう。話題のスポットにも注目を
【健康運】不調を感じたら、十分な睡眠を心掛けて
【幸運を呼ぶ食べ物】豆腐

いて座 (11/23~12/21)

【全体運】仕事を早めに済ませ、落ち着いたひとときを過ごすのに向いています。好きなことに、じっくり打ち込んでみて
【健康運】生活のリズムが乱れやすいので、ご用心
【幸運を呼ぶ食べ物】ユリ根

やぎ座 (12/22~1/19)

【全体運】新しいことをスタートさせるのに最適。温めているプランがあるなら、ぜひ実行に移して。積極的が幸運の鍵に
【健康運】ストレッチなどの運動が好調の呼び水に
【幸運を呼ぶ食べ物】フグ

みずがめ座 (1/20~2/18)

【全体運】サービス精神を示すことで、身近な人との仲が、より好転。円満な人間関係を築けます。温泉も幸運の呼び水に
【健康運】小まめに動いた方が心身とも開放感あり
【幸運を呼ぶ食べ物】ゴボウ

うお座 (2/19~3/20)

【全体運】周りから良い影響を受けられそう。一目置いている人のやり方や考えを参考に。習い事に励むのも正解
【健康運】体力アップの好機。スポーツを満喫して
【幸運を呼ぶ食べ物】カキ

